



中津宮・七夕祭斎行
 「むなかた大島七夕祭り」も併せて催行



9月祭事暦	
毎月1・15日	つきなみ 月次祭
午前10時～	高宮祭 第二宮・第三宮祭 引き続き 宗像護国神社 月命日祭(1日) 巡 拜(15日)
午前11時～	総社祭 ※1日は併せて風鎮祭斎行 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
23日	皇霊殿遙拜式
午前10時～	
31日	秋季大祭宵宮祭
総社地主祭	午後5時～
宵宮祭	午後6時～

八月七日、七夕伝説発祥の地といわれる大島・中津宮で七夕祭が斎行された。これに併せ、本年は宗像観光協会(吉武邦彦会長)他の協力により「むなかた大島七夕祭り」も催行し、満天の星を仰ぎロマンに溢れた祭事となった。

大島では八月一～七日までを七夕週間とし、七月三十一日には沖・中両宮奉賛会(佐藤千里会長)により、中津宮境内及び大島フェリーターミナル、海水浴場周辺を七夕飾りで装飾。また期間中に旅館・民宿に宿泊された方には中津宮境内に湧き出る「天ノ真名井」の御神水と七夕短冊をプレゼントした。

七夕祭当日は、早朝より沖・中両宮奉賛会、敬神婦人部(河辺恒子部長)の御奉仕により七夕装飾が行なわれ、中津宮周囲には島民はもとより、中津宮境内でも受け付けた子供達や参拝者の願いが込められた短冊をはじめとする七夕飾り一色で彩られ、午後六時頃には浴衣姿の島民や、島外からの参拝者が続々と中津宮へ参集した。



IDEMITSU

佐賀県
二千年の弥生文化
吉野ヶ里遺跡

出光

自然や歴史を大切に守るために、
排気ガスをもっとクリーンに——。
環境と向かい合うことが、私たちの技術です。
「出光ゼプロ」シリーズ。

出光ゼプロ
ZEPRO
 ECO MEDALIST SM 0W-20
 MILE STAGE SM 5W-20

<http://www.idemitsu.co.jp>
 [出光お客様センター]0120-132-015
 受付時間 月～土曜日9:00～17:30(祝祭日・年末年始を除く)

ほっと安心、もっと活力、きっと満足。出光の約束



境内では、神賑わいとして沖・中両宮翼賛会(上野美実会長)による「かき氷・タコ串焼き」、大島青年団の「金魚すくい、ヨーヨー釣り」、J A宗像大島支店の「ビール販売」、宗像市の「大島牛試食会」が開催されると共に、ヤズツコ会(河野幸一代表)により境内及び道路沿いに竹灯が灯され、家族連れを中心に七夕の夜を楽しんだ。

午後六時三〇分からは、宗像観光協会により中津宮境内下の公園で「七夕コンサート」を開催。コンサ

ートでは、演歌歌手「藤雄介」氏の公演、中国伝統音楽「楊琴」と「二胡」の演奏などが催され観客を魅了した。

午後八時、境内を流れる清流「天の川」を挟んで鎮座する「牽牛社」「織女社」の御前で、厳肅に七夕祭を斎行、参列者はそれぞれの祈りを込めて玉串を捧げた。

祭典後に奉納される恒例の七夕踊りも参加者が多く、大島居を二重の輪で囲んで行なわれ島民、来島者、子供、大人も皆で七夕の夜を

夏越の大祓式

酷暑の真つ只中の七月三十一日、強い西日が照りつける午後五時より、夏越の大祓式が神門前にて古儀に則り厳肅に執り行われた。

大祓式は、奈良時代の昔より神祇官の命にて、国家的神事として行われてきた儀式であり、今日では六月と十二月の晦日に宮中・神宮を始め全国の神社で行われている。当社の夏越大祓はひと月遅れの七月の晦日に夏越祭と併せて行っているが、このような神社は少な

くは無いようである。

当日は、早朝より田島地区総代・協力会の皆様の御奉仕で大社近く

過ぎた。

午後九時三〇分、大島港より臨時渡船が出港、満天の星空のもと来島者は帰路につき、今年の七夕祭りを無事に終了した。



の茅が刈取られた。茅は大社に持ち帰り、瑞々しい茅ばかりに選別。それを一定の長さ・量に揃え、直径五メートルにも及ぶ見事な大茅輪が奉製され、御本殿前の神門に備え付けられた。

古来、この茅輪を三度潜れば、邪気・災難を祓い去り、暑気にもめげず健やかな生活を送る事が出来る

と謂われている。

午後五時、全国から寄せられた紅白の人形が茅輪の前に供えられ、宮司以下神職、巫女、氏子崇敬者等約二〇〇名が参列し、神事が開始された。権宮司が「大祓詞」を宣読した後、参列者各々「切麻」で己を祓い、「祓物」に息吹きかけて切

宗像建設協力会

事務局 〒811-3217 福津市中央5丁目1-20
TEL (0940)42-0323

	<h3>株式会社 井上建設</h3> <p>〒811-3217 福津市中央5丁目1-20 TEL 〇九四〇四二〇三二三 FAX 〇九四〇四二〇三二七</p> <p>井上 重信</p>	<h3>株式会社 桜井建設</h3> <p>〒811-3217 福津市畦町三四六 TEL 〇九四〇四二一八八 FAX 〇九四〇四三一五二六</p> <p>櫻井 良行</p>	<h3>株式会社 篠崎建設</h3> <p>〒811-3217 福津市内殿一〇二一九 TEL 〇九四〇四二〇六一七 FAX 〇九四〇四二〇六七五</p> <p>篠崎 清</p>	<h3>株式会社 田畑建設</h3> <p>〒811-3217 福津市西福岡三一五一〇 TEL 〇九四〇四二〇五一三 FAX 〇九四〇四二〇五八五</p> <p>田畑 博規</p>	<h3>株式会社 日新建設</h3> <p>〒811-3217 宗像市田熊四丁目一三六 TEL 〇九四〇三六二二三一 FAX 〇九四〇三六四七九八</p> <p>長尾 榮次</p>	<h3>株式会社 松崎組</h3> <p>福岡市中央区荒戸一丁目二一四 TEL 〇九二七五一一三六九二 〒811-3217 福津市宮司一八四四 TEL 〇九四〇五二一一三三〇 FAX 〇九四〇五二一一三三〇</p> <p>松崎 芳勝</p>	<h3>松本組建設株式会社</h3> <p>〒811-3217 宗像市神湊一〇二〇 TEL 〇九四〇六二〇〇一六 FAX 〇九四〇六二〇〇一六</p> <p>松本 真誠</p>
---	---	--	--	--	--	--	--



裂き、半年間の罪・穢を祓った。
 続いて、宮司以下参列者全員で
 茅輪を左に廻り
 みなつきの夏越の祓へする人は
 千歳の命延ぶといふなり
 次に茅輪を右に廻り
 思ふこと皆つきねてと麻の葉を
 切りに切りても祓えつるかな
 さらに茅輪を左に廻り
 宮川の清き流れに禊せば折れる
 ことの叶わぬはなし
 と古歌を奉唱しながら三度潜り、
 本殿へと参進した。
 引続き本殿にて夏越祭が斎行さ



出光興産(株)天坊昭彦社長3度目の沖津宮参拝

梅雨が明けて間もない7月23日、出光興産(株)社長天坊昭彦氏と日本郵船社長宮原耕治氏一行8名が沖津宮を参拝した。
 参拝前日には辺津宮本殿で正式参拝し、神宝館を拝観。当日は天候にも恵まれ、沖津宮勤務交代の御用船でもある海上タクシー宝栄丸(佐藤守船長)で、穏やかな海上を進んだ。
 到着後、一行は直ちに海中で禊ぎを行い、沖津宮で祈願祭を斎行、敬虔な祈りを捧げた。参拝後は同行した高向権宮司が沖ノ島の説明を行い、祭祀遺跡を見学した。
 出光興産(株)天坊社長は今回で3度目の参拝、日本郵船の宮原社長は今回が初めての参拝で、両社とも海上運航に関わる仕事であり、そのような観点からも今回の沖津宮参拝には感銘を受けて戴いたようである。
 参拝後は沖津宮社務所で直会を行い、玄界灘の海の幸を豪快な漁師料理で召し上がって頂いた。かなり雑な料理であったにも関わらず好評で安堵した。つかの間の直会を終え、帰りには沖ノ島を一周して帰路につかれた。



れ、氏子崇敬者と全国から人形を
 寄せられた方々の無病息災・家内
 安全を祈念する祝詞が宮司により



奏上され、巫女による神楽『豊栄舞』
 を奉奏し、夏越祭は滞りなく終了
 した。



宗像タクシー協会

〒811-4185 宗像市赤間駅前2丁目3番14号
 連絡先 TEL (0940) 35-1111

みなとタクシー株式会社(会長)
 代表取締役 古野 浩
 宗像市赤間駅前二丁目三番一四号
 TEL 〇九四〇・三三・一三三

新星交通有限公司
 代表取締役 森 正彦
 宗像市東郷一丁目五番二号
 東郷営業所
 TEL 〇九四〇・三六・二一三八

宗像西鉄タクシー株式会社
 代表取締役 小金丸 重樹
 宗像市自由ヶ丘二七三
 TEL 〇九四〇・三二・四一三一

宗像グリーンタクシー有限公司
 代表取締役 藤瀬 政敏
 宗像市河東一〇六一
 TEL 〇九四〇・三二・三三〇三

宗像平和タクシー株式会社
 代表取締役 塩川 浩一
 福津市中央三丁目八・一一
 TEL 〇九四〇・四二・〇〇四〇

福栄タクシー有限公司
 代表取締役 保井 享
 福津市西福岡二丁目一〇・一三
 TEL 〇九四〇・四二・〇三七三

宗像交通有限公司
 代表取締役 塩川 浩一
 福津市津屋崎七一九五
 TEL 〇九四〇・五二・〇〇一五

世界遺産登録活動報告会

福岡県、宗像・福津市関係者沖ノ島へ、その後、宗像市内のホテルで報告会

現在、宗像・福津両市では福岡県と共に、沖ノ島と関連遺産群(宗像大社、津屋崎古墳群、桜京古墳、東郷高塚古墳)を世界遺産にと幅広い活動を展開しているが、その活動の一貫として八月八日、森山福岡県教育長、谷井宗像市長をはじめ、県議会議員、宗像・福津両市議会議員など計七十一名が沖ノ島へ渡島した。

当日は福岡港から二隻、神湊港から一隻の船が出航し、波に揺られること約一時間。船から見える沖ノ島を目の当たりにし、乗船している参加者からは感激の声が



水につかつて褌を済ませ沖津宮を参拝した。

社殿では高向権宮司、安部氏(宗像市役所文化財担当)による、沖ノ島での祭祀や出土神宝等についての概要説明があり、その後祭祀遺跡を視察。参列者は、目の前に現れる悠久の歴史に感銘を受け、その価値を改めて認知した様子であった。

夕方からは玄海ロイヤルホテルで活動報告会が開催され、登録活動のこれまでの経過報告、市担当者による「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の概要説明が行なわれた。その価値は十分認められるがクリアすべき課題もあると、今年一月下旬に出された継続審議という結果受け、西谷正代



博物館で国際シンポジウム、同二十四日に東京の早稲田大学国際会議場で東京シンポジウム(いずれも福岡県、宗像市、福津市主催)を開催する。そして、十二月下旬に世界遺産暫定リスト(国内候補地)登録を目指し、文化庁へ申請書を再提出する。来年二月頃には結果が分かる予定である。

表(日本考古学協会会長、九州大学名誉教授ら有識者による専門家会議が、今年末に再提出される提案書の取りまとめにあたっている。当日の報告会でも、その提案書のコンセプトについて西谷正代表から説明があり、「沖ノ島と関連遺産群」の歴史的な価値や普遍性について言及された。このような世界遺産登録活動に対し、麻生知事は「地元の熱意を伝え、暫定リスト(国内候補地)入りを成し遂げよう」と意気込みを語られた。今後の予定は、十二月二日に九州国立



宗像大社御神酒醸造元 勝屋酒造合名会社

社長 山本 博次
福岡県宗像市赤間4丁目1-10
TEL(0940)32-3010 FAX(0940)32-4772

地球に優しいひとときを… Genkai Group

玄海グループ

〒811-3502 福岡県宗像市江口978-52
本社 TEL 0940-62-0653 FAX 0940-62-1565
URL <http://www.genkai-g.co.jp>

(有)玄海環境サービス (宗像市許可業)

- 一般廃棄物収集・運搬
- 浄化槽の維持管理

玄海クリーン(有) (宗像市委託許可業)

- 一般・産業廃棄物収集・運搬・処理



七月二十四日、筑前大島の中津宮で恒例の七夕揮毫会が開催され、約一六〇名の子供達が島での一日を満喫した。

書道教育の振興を目的に、昭和三十一年に始められたこの揮毫会は、数ある宗像大社の神賑行事で最も歴史ある大会であり、今年で五十二回目を迎えた。

当日は猛暑の中、今年も大島は勿論、県内各地から多くの子供達が来宮し、限られた時間の中、揮毫会場の

第五十二回中津宮七夕揮毫会
子供達約一六〇名参加の下、大島で開催

大島小学校で、日々の練習の成果を発揮しようとして筆先に神経を集中させ、懸命に各課題に挑んだ。

正午前には全作品が中津宮に提出され、先ずご神前に奉納、参加者の学業成就、健康を祈念する奉告祭を執り行った後、福岡書道会の先生方によつて厳正な審査が行なわれた。

その間、緊張から開放された子供たちは、大島の方々のご協力で行われている恒例の「サザエ拾い」や海水浴を楽しみ、島でしか味わうことのできない大島の大自然を満喫した。

午後三時から、中津宮で表彰式が

◆ 各受賞者は下記の通り ◆

福岡県知事賞	川崎 千尋	警固小学校	小学6年
福岡県知事賞	井上 歌奈	ふた葉中学校	中学1年
福岡県議長賞	鈴木 宗吾	津屋崎小学校	小学3年
福岡県議長賞	三木祐佳里	津屋崎中学校	中学3年
福岡県教育委員会賞	三木麻友香	津屋崎小学校	小学5年
福岡県教育委員会賞	原 愛梨	柳城中学校	中学2年
宗像大社宮司賞	松原 詩歩	北勢門小学校	小学4年
宗像大社宮司賞	末吉 礼奈	平尾中学校	中学1年
宗像市長賞	末吉 かな	平尾小学校	小学1年
宗像市長賞	千代 翔陽	津屋崎中学校	中学2年
福津市長賞	与田 まこ	藤吉小学校	小学2年
福津市長賞	谷口明香莉	津屋崎中学校	中学3年
宗像市長賞	鈴木 琴音	津屋崎小学校	小学6年
宗像市長賞	後藤 大樹	篠栗中学校	中学1年
福津市長賞	高田みのり	津屋崎小学校	小学3年
福津市長賞	與田実果子	三橋中学校	中学2年
宗像市教育委員会賞	萱野 みお	赤間小学校	小学2年
宗像市教育委員会賞	桑山 雅文	中央中学校	中学3年
福津市教育委員会賞	高崎 育美	三苫小学校	小学4年
福津市教育委員会賞	高武 麻里	津屋崎中学校	中学1年
宗像観光協会賞	高武 里沙	津屋崎小学校	小学5年
宗像観光協会賞	磯脇 佑太	城山中学校	中学3年
福津市観光協会賞	池元咲弥香	舞松原小学校	小学1年
福津市観光協会賞	上妻 千晃	津屋崎中学校	中学2年

柗石賞9名、福岡書道会賞9名、尚文堂賞9名、ヒコ力ネ賞15名



行なわれ、葦津禰宜から入賞者に賞状とトロフィーが授与され、午後四時には一同大島の思い出を胸に家路についた。

本年の揮毫会には大島島民をはじめ多くの方々のご協力により、無事開催できました事を紙面の上より厚く御礼申し上げます。

創業嘉永三年(1850年)
伝統に支えられた宗像神湊の味。

ナカマル醤油醸造元
宗像市神湊1118
TEL 0940-62-0003 FAX 0940-62-0353

昭和15年頃のナカマル醤油本店

暮らしの夢を大きくひらく

株式会社 城山家具
代表取締役社長 寺田 修
宗像市三郎丸5丁目1-22
0940-33-5538

の専門
上田清商店
〒811-3304
福岡県福津市津屋崎1123
Tel 0940-52-0148 Fax 0940-52-5488

宗像農業協同組合
本店 代表理事組合長 寺島 俊基
宗像市東郷4丁目3番1号 TEL 0940-36-4110
支店 支店長 田中 政人
田島支店 宗像市深田75-1 TEL 0940-62-1515

宗像大社神酒
合資会社 **伊豆本店**
代表者 伊豆善也
福岡県宗像市武丸1060
TEL 0940-32-3010 FAX 0940-33-0512

印刷のことならお気軽にご一報ください
名刺・封筒・はがき・カラー印刷・製本のことなら

中川印刷
福岡県福津市津屋崎975 TEL 0940-52-0044 FAX 0940-52-0414

太宰府天満宮との親善野球試合

両社譲らず引き分けるも、東西神社人野球大会の結束を固める

七月十九日小郡市営球場で、年二回恒例となっている当大社と太宰府天満宮の親善野球試合が行われた。午後三時三〇分、宗像チームの先

攻で試合が開始され、当大社は相手ピッチャー神島(兄)の立ち上がりを攻め、初回到四点を奪った。しかし、その裏宗像チームの先発大塚もピリツとせず、太宰府チームの強力打線につかまり二点を返された。

その後は両チーム投手が踏ん張り息詰まる熱戦となったが、中盤太宰府チームのエース神島(弟)がマウンドに立つと、宗像チームの打線は



完全に沈黙。逆にリズムを掴んだ太宰府チームにじわじわと追加点を奪われ、七回の最終回について追いつかれた。

だが、宗像チームの固い守りに、太宰府チームはあと一本が出ず、四対四の引き分けて終了した。

両者相譲らぬ攻防となった親善試合を終えると、通常の社務を終えた当大社職員も加わって、太宰府天満宮内「余香殿」で懇親会が行われ、

太宰府天満宮の森禰宜より歓迎の挨拶・試合内容の報告、当大社神島宮司より試合講評並びに、八月二十一日に行われる東西神社人野球大会に向けての激励の言葉を頂いた。

宴も酣となったところで、東西神社人野球大会の出場選手の発表があり、本年お世話する大会を両社職員一致協力して成功させることを誓い、懇親会は終了した。



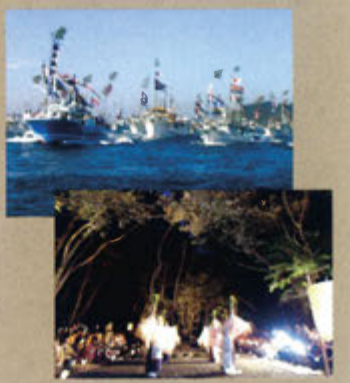
宗像大社 秋季大祭(田島放生会)のご案内

当大社最大の神事、秋季大祭を下記日程で斎行致します。皆様の御参拝を心よりお待ちしております。

宗像大社秋季大祭(田島放生会) 日程

10月1日(月)	海上神幸 (みあれ祭)	9:30	大島港出港	10月3日(水)	三日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉奏
	一日祭 (入御祭)	11:40	神湊港入港 於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉奏		高宮秋季大祭 第二宮・第三宮 秋季大祭 宗像護国神社 秋季大祭	三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行 (11:40頃を予定)	
10月2日(火)	流鎗馬神事	8:00	於=神門前 参道	献茶祭	14:00	於=辺津宮 本殿	
	二日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁舞 奉奏	高宮神奈備祭	18:00	於=辺津宮 高宮祭場	

お問い合わせ先 宗像大社 社務所 (0940)62-1311(代)



宗像・玄海の観光物産品卸

花田食品株式会社

代表取締役 花田 洋

宗像市田熊6丁目3番27号 TEL 0940-36-5533

出光興産株式会社販売店
東京海上日動火災保険(株)代理店

吉井商事株式会社

IDEMITSU 代表取締役社長 吉井 英海

本社 宗像市深田67-7
TEL 0940-62-0004 FAX 0940-62-3343



創業大正七年 鮮魚・海産物

やまし

福岡県宗像市神湊中町
TEL 0940-62-0006(代)
FAX 0940-62-2143

ファミリーストア岡山

岡山 秀雄

福岡県宗像市神湊1000
TEL 0940-62-0134
FAX 0940-62-2914



遠藤クリーニング

代表 柴村 勲

〒811-3501 宗像市神湊635
Tel 0940-62-0217

食料品・青果・たばこ

田中商店

福岡県宗像市神湊1052
TEL・FAX 0940-62-0122



(続)

次郎の寄物

218



いしい ただし

孫太郎はタイコン官に仕えて、およそ七年の歳月が過ぎた。初めは言葉が通じず不自由をしたが、次第に中国人や、黒坊の言葉も理解できるようになり、難儀することもなくなった。

孫太郎がつくづく思う事は、自分は日本に産れながら、異国の黒坊の国で死ぬことは残念である。なんとか日本に帰る方法はないかという事を考えていた。主人の家風は、親孝行であり「このことをなにか利用する手はないか」という考えに辿り着いた。孫太郎には両親がいなかったが、日本に両親がいるという事にして、時折そばにいる人達に語っていた。「自分は幸いに生命を保ち、このような豊かな国に来て、ことさらに長く主人のご恩を受け、身に何の不足もない。日本に居た時には貧しい生活だったが、ここでの生活はよい。ただ一つ気にかかって心配なことは、日本にいる両親のことで、年もとっており、自分が帰ってこないの心配し、朝夕泣き悲しんでいるにちがいない。願はくば、一度日本に帰り、両親に面談し安心させたら、また戻ってこよう。日本の長崎には、中国船やオランダ船も毎年來ているので、再びこの国に帰ってきて奉公

することができぬ」。孫太郎の言葉は一家の者達に大いに同情された。

ある日、主人のタイコン官は孫太郎を呼びつけ笑いながら、お前が日本に帰り、再びここに戻ってくると言っているが、そんなに日本は近いところではない。日本までは万余里へだてており、再びくることはむずかしいだろう。お前は生涯買われた身だが、それほどまで、親を慕う気持ちがあるならば、便船があれば送り帰えそう、安心せよと言われた。孫太郎は歡喜踊躍した。それからは船の便りを待っていた。

やがて福州船二艘が入港した。その一艘はタイコン官の家に客留した。主人は孫太郎の事をくわしく話し、熱心に頼みこんだ。タイコン官の熱心な願いが通じ承諾を受け、帰る方法が協議されたが、結局は孫太郎が希望したオランダ船で帰ることになった。

タイコン官は孫太郎をオランダ館につれていき、官長(館長)に會つて、孫太郎の日本帰国を熱心に頼んだ。話は進み同



意もしてくれられた。オランダ官長は菓子や酒をふるまうて歓迎してくれた。タイコン官は家に帰り、孫

太郎に対して「お前さんに財宝をやるうと思つたが、船中で財貨をもつていれば、色々問題もおそろうし心配もある。銀錢一封(たいまい)一枚(ウミガメの背甲べつ甲といわれ、日本では各種の装飾品に製作された)。また飼つていた紅いインコを籠に入れて贈つてくれた。

お伴の時に持つていた兵器(鳥銃・劍・鎗)等も渡されたが、孫太郎は兵器を使うことはない、感謝して返した。タイコン官は男子として劍一口は身に離してはならないと与えた。

なじみの者達から銀錢二文三文と、紅紙に包んだものも贈られた。タイコン官の下婢ウキンは乳搔を解いて贈つた。いよいよ出帆の時がきた。主人はもとより、日頃戸外に出ない妻女や、近所の人達まで皆港まで出てきて見送つた。

みな涙を流して別れを惜しんだ。孫太郎も七年の間住んでいたとを離れることになり、名残の惜しさと、日本に帰れるという喜びが一緒になつて袂(たもと)を濡らした。乾隆三六年(和暦昭和八年)四月十三日のことであつた。



玄海国定公園の中心
一風光明媚、生魚料理、宗像大社となり一

玄海ホテル旅館組合

魚屋本店 ☎ 〇九四〇 六二二二二二

魚屋別館 ☎ 〇九四〇 六二二三三五

玄海旅館 ☎ 〇九四〇 六二二〇〇一

高嘉旅館 ☎ 〇九四〇 六二二二二二

はなわらび ☎ 〇九四〇 六二二二五六

松風荘 ☎ 〇九四〇 六二二〇二〇

みなと荘 ☎ 〇九四〇 六二二二五五

国民宿舎ひびき ☎ 〇九四〇 六二二二八八

玄海ロイヤルホテル ☎ 〇九四〇 六二二四一一

神湊スカイホテル ☎ 〇九四〇 六二二三八〇

第五五三回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

うきはし市浮羽町 向 則正

評 無理かさね貧困にすぎしわが祖父は末期の水に酒をすいたり
農は国の基なりと言われながら報われなかつた時代の祖父を詠
つたのだろう、無念の情が見える。

福津市 光陽台 香月 照子

評 七夕の短冊に書く願ひごと弱りし心強くなれかし
「かし」は、よ、ね、な、なのだよ、の意だから三句の「書く」を受け
て「強くなれよ」とが正しい。

宗像市 光岡 則松 芳子

評 とんぼがネ梅雨晴れの日に低きより高きに飛びて川面に写る
初句の「とんぼがネ」は、誰かに呼び掛けているのだが、以下にそ
れに応える語句が無いので「赤とんぼ」と直す。

福津市 若木台 野間 精一

評 老われも結はへてみだし短冊を幼稚園の庭に七夕竹が
この二句は自身に対する呼びかけ、願望だから四、五句は「幼稚
園の庭の七夕竹に」の方がいい。

北九州市 八幡西区 吉田 ウト子

評 古り住める軒に燕は巢をかためひんやり青き雨期を呼び込む
下句の感覚は透抜である。

宗像市 田久 巻 桔梗

評 腹みせし稚鯉に鯉らつきつきと別れ告ぐがに口を触れに来
「別れ告ぐがに」にこめられた愛情と繊細さ、結句は「口触れてゆく」
も考えられる。いい歌である。

北九州市 戸畑区 田中 ハツセ

評 さし木してふやせしあじさい五種類を雨の庭より伐りてみやげに
心のもつた最高のみやげである。物語りとしてはいいが短歌
としては時間の経過が長すぎるのが残念。伐るは切るである。

宗像市 曲 天野 玲子

評 しぶく雨に腕広げたる如く立つ大楠見えて父を思へり
雨の中に立つ大楠に父を重ねたうた。雄々しい頼り甲斐のあつた父
の在りざまが伺える。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

評 堅香子が遊印の側面に彫り込まれ桃色の花びら反らしていたり
遊印は画家や書家たちの落款に用いる印のこと。印を持つ人の
ゆかしさが偲ばれる。

福岡市 南区 井田 有久衣

評 台風も事なきをえて青空に蟬の鳴き声しじまを破る
きちんと詠われているが、素材としては幾百幾千人の人が詠つ
ていることも承知して欲しい。

宗像市 ひかりヶ丘 清水 亜矢子

評 暑さまし子供姿見かければふと気がつけば夏やすみなり
巫女として境内で目にしたことを詠つたのだろうが見かければ、気が
つけば、「ば」の重さなりは、ますいので三句を増えてきぬ」とする。

宗像市 田野 森 甲子

評 梅雨嵐に青葉吹き荒る樟大樹いづこに居らむ軒の雀は
名詞の多いのが気になるので、「二句を「荒梅雨に吹き荒れてい
る」結句を「雀の群れは」としたい。

宗像市 大島 杉田 禮子

評 一枚の落葉が何故か気になりて宮の石段また上りゆく
人間が時にかかえる漠とした不安をうたつて面白い。

宗像市 日の里 大和 美由紀

評 護符の立つ早苗の植わる神の田におたまじゃくしのゆらゆら泳ぐ
初句は「立つ」の初句切れでなく「立ち」と、おだやかな詠み出し
としたい。

福津市 中央 池浦 千鶴子

評 子に送る高菜新漬け炒めをりすりごま一さじ多めにに入れて
子の好みを知りつくした母らでの一首。

選者詠 去年より少しと言ふ螢火が激しき雨の降りいでて消ゆ
螢火の雨に消え失せ聞深し茂吉が予後をすこせし古湯は
「あらたま」の歌稿手入れし籠りけむ茂吉を思ふ暗谷ここに



第五二八回 俳句作品集

宗像市 日の里 花田いつ枝
梅雨明けも近しと信ず今朝の晴れ
宗像市 光岡 佐藤 純一
葉桜の並木道には靴の音

編集後記

実家に帰省
させていた
だきました。何を
する訳でもな
く、孫の顔を見
せ、ゆくりした
だけでしたが、
帰省する度に郷
土の魅力を再認
識させられまし
す。リフレッシュ
させていただき
ました。▼勿論
愚息も一緒です
が、一驚いたこ
とがありました
。何でもよく食
へ過ぎ、「幼児メ
タボリック」と
からかわれる程
立派なお腹です
が、最近彼も好
き嫌いが始め
ており、野菜を
嫌がる傾向にあ
ります。▼とこ
ろが、実家を出
された、普段は
食べないトマト
、とうもろこし
、枝豆等をいつ
までも食へ続け
るではないです
か！全て両親が
育てた野菜で
すが、これには
驚きました。ス
ーパーのものが
決して悪いと思
いませんが、そ
れを食べようと
しない愚息に「
少しは食の安全
を考えろ」と言
われているよう
でした。▼国内
の偽装表示や輸
入食品に対する
不信感等いろいろ
報道されていま
す。最近ではワ
インのソムリエ
のように、「野菜
ソムリエ(日本ベ
ジタブル&フル
ーツマイスター協
会、東京)の資
格取得者も増え
ているそうです
。なんと全国に
一万人もいると
いうから驚きで
す。考えさせら
れました。あつ
つ!!その前にた
ばこを...

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延
制作 セネラルアサヒ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円